

交流人口 400万人 達成記念 "対談"

まちの活性化の鍵は 交流人口を増やすこと

観光資源が豊富な当市。このほど、市が目標としていた年間の交流人口400万人が、計画よりも3年早く達成されました。

今回は、市観光協会会長の鎌田満さんと市長が「観光交流人口」をテーマに対談を行いました。司会は、市政モニターの後藤加代子さん(岩村町)。

観光交流人口の目標達成への道のりや市の魅力、これからの観光の在り方などについて、語っていただきました。

ここでは、その対談の内容を紹介します。

400万人だったようです。

あえて高い目標を設定

【後藤】観光交流人口400万人は、そもそもどういう目標ですか。

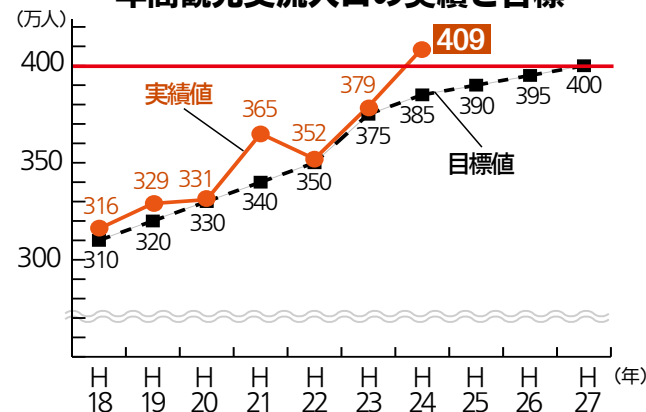
【市長】合併した後、平成18年から27年の10年間にどういう市をつくっていくかをまとめた総合計画を1年かけて作りしました。その内容には、六つの柱と31の施策があります。柱の一つ「活力と創造性あふれる魅力あるまち」の中には、「地域資源の連携による個性的な観光の振興」の施

策があり、観光客数の目標値を定め

ました。当時293万人だった観光客数を平成22年には350万人、平成27年には400万人となるよう設定しました。

この目標に向けて、いろんな連携をしたり、観光客の誘致をしたりしてきました。この目標にしたときには「夢のような話をするんじゃない」とも言われましたが、高山市でも努力してあれほどの観光地になったのだから、目標を高くして努力し、まちを活性化することが大事だと思います。

年間観光交流人口の実績と目標



達成はみんなのおかげ

【後藤】観光交流人口400万人の目標達成について、感想を聞かせてください。

【会長】合併当初の年間観光交流人口は、293万人であったのに、市長は400万人を目標にすると言われました。高い目標でしたが、達成できて夢のようでした。やればできるものですね。目標は高い所に置かないと何もうけないと思います。

【市長】年間交流人口400万人は、高山市の数値でした。観光都市の高

山市ぐらいになりたいと、この目標にしました。この目標は平成27年までに達成するものでしたが、3年も早く達成することができました。観光協会や各地域で観光に力を入れていく方々、各種のイベントをやっている方々のおかげだと思っています。大変ありがたいことだと思っています。

【会長】当市のことを広めていただく観光大使や、名古屋圏在住の市出身者の会「恵愛ゆかりの会」にも支援してもらったと思います。

平成24年は国体があったからだともいわれますが、国体がなくても

魅力の一つはおもてなし

【後藤】恵那市に訪れる魅力は何だと思っていますか。

【会長】緑が多くて空気が良く、自然が多いことだと思います。例えば上矢作町には、アライダシ自然観察教育林(以下、アライダシ)や滝、風力発電などがあります。恵愛ゆかりの会の方たちが先日、アライダシに行ったとき、こんなに素晴らしい所があるのかと喜ばれました。岩村町富田の農村景観日本一も当市しかないものです。

【市長】私もこんな所に原生林があるのだとびっくりしました。

【会長】弁慶スギに負けない木が何本もありますからね。上矢作町の風力発電を見てアライダシに行けば、一日ゆっくり過ごせます。

【市長】自然も魅力ですが、私は、1番の魅力は、市民のおもてなしだと思います。また歴史的な文化もあります。例えば農村景観日本一や棚田、歌舞伎、獅子舞、偉人、明知鉄道などです。変わっていて面白い取り組みもあります。串原の布ぞうりや全国的にも有名なヘボの巣コンテスト、山岡町の細寒天を使った料理を給食に提供するなど、当市に来たら面白いと思えるものがあることも魅力の一つだと思います。

当市には、観光資源もたくさんあ



▲アライダシ自然観察教育林の原生林

ります。たくさんある魅力を宣伝して、訪れてみたくなるようにしたいと思っています。人が集まる所には、必ず活力が生まれるため、交流人口を増やせば、市は活性化します。今後、市の人口は減っていきませんが、交流人口が増えれば、元気になれると思います。いろんな観光資源をうまく磨き上げて、皆さんに興味を持って来てもらえる仕組みが大事です。

【会長】岩村町のまちは、以前とは変わってきました。昔は通るだけの人が多かったですが、今は見て歩く人が増えています。一番大きいのは、電線を地中化して、再構築したことだと思います。市の魅力の一つに、市民の思いやりなど、お客を受け入れる心が影響していると思います。岩村町や明智町にもそれがあると思います。



かちよしあき 恵那市長 可知義明

盛んに取り組みを展開

（後藤）交流人口増加に向けて、具体的に取り組んだことはありますか

【会長】 明知鉄道は、いろんなアイデアのおかげで、乗る人が増えました。先日、満員列車に乗り合わせたときには、全員が岩村駅で降りました。目的は岩村城でした。明知鉄道を活用した人寄せができていたと思います。

【市長】 平成11年から恵那駅前にタウンプラザを設け、観光案内をしていました。観光協会から恵那の土産を販売したいと話があり、整備して市観光物産館「えなてらす」として平成22年にオープンしました。

【会長】 えなてらすの来館者は、昨年は6万4000人で前年より1割増、売り上げは2割増となりました。えなてらすが出来たことは、市にとってプラスだったと思います。恵那駅に隣接し、お客が土産を買ってすぐに電車に乗れるのも魅力だと思っています。秋になると、地域の日を設けて農産物や特産品も売っています。

【市長】 笠置町は、ゆず祭りを開催しており、ユズを地域の特産品にしようという意識がすごく強いんです。地域がユズでまとまり、特産品を作り出そうと、まんじゅうやようかん、ドレッシングなどユズを使ったあらゆる試作品を作りました。地域が一つになり、取り組んできたことが順



▲ 11月に開催された笠置町ゆず祭り

番に広がってきて、交流人口の拡大につながっています。

【会長】 私もゆず祭りに行きました。あれほど大勢の人がいるとは思いませんでした。

三郷町がJR東海のさわやかウォーキングに合わせて行った「ごへだ祭り」は、地域ぐるみでの取り組みに驚きました。町内の3カ所で特産品を売っていましたが、歩いた人は楽しかったと思いますよ。

【市長】 名古屋市のオアシス21で開催してきた観光物産展は、7回目になりました。平成24年からは「栗きんとん祭り」として行っています。栗きんとんは、全国でも人気がある菓子で、長蛇の列が出来ていました。新鮮な野菜を含め、特産品をうまく宣伝していくことが効果につながる

と思います。来ていただく方に楽しんでもらうため、明智町の大正村広場や岩村町の町並みの整備を行いました。また市内には、多くの祭りがあるので、行政も支援して、祭りを盛り上げていくことも必要です。当市の祭りは、どこに行っても楽しいという形にできたことも、交流人口を拡大してきた一つだと思います。

次の目標は500万人

（後藤）次の目標として何か考えはありますか

【市長】 次は500万人を目指したいと思っています。100万人増やすのは、高い目標だと思います。県の観光統計を分析すると、平成24年に市を訪れた観光客は、平均で約3600円使ったと想定されます。100万人の増になれば、年間36億円が地元で使われることになります。交流人口を増やすことは、まちの活性化になくはならないものだと思います。これは、観光産業にも、地元の物を売っていく地産地消にもつながるものです。

平成25年度には、JR名古屋駅のココンコースと名古屋近辺の30駅に当市のポスターを張りました。恵那峡と岩村の二つのシリーズです。そういうことをやることで、「恵那市は素晴らしい所だ」と思ってもらえます。お金は掛かりますが、繰り返しやることで、当市の知名度が上がるので、毎年やりたいと思います。平成26年度は、東京にポスターを張りたいと思います。

【市長】 明智小学校にあったSLを明知鉄道の明智駅に移動させましたが、SLも一つの夢です。SLを見たいとか、動けば乗りたいとかいうお客もいると思います。

【会長】 本場にSLが動けば人が来ると思いますよ。

【市長】 リニアに乗って来て、明知鉄道に乗って、SLに乗れば、絶対楽しいです。明知鉄道は、一つの文化遺産なので、地域の活性化に必ずつながると思います。沿線には城下町や農村景観、花白温泉などがあるので、楽しいと思います。

岐阜県や当市は、東京圏ではあまり知られていません。恵那農業高校



かまだみつる 鎌田満さん 市観光協会会長

体験できる観光で集客

（後藤）次の目標に向かって、今後どのような観光都市づくりが必要ですか。

【市長】 これからの観光は、見るだけでなく、体験型や参加型の観光が求められています。「見る」「食べる」「学ぶ」「遊ぶ」を備えていることが大切です。どの地域にもウォーキングコースがありますが、歩くだけではなく、そこに何があるのかを楽しむながら次の所に行けるといいと思います。素晴らしい風景や歴史、食べ物などを求めて行けるようにです。日本の昔の姿が見たいと、外国人が妻籠や馬籠に来ますが、市内でも棚田や岩村城下町は、外国人に推薦できるものだと思います。

棚田で田植え体験をしながら、泊まって収穫物を食べるなど、滞在型になればいいと思います。市内で滞留するか再び来てもらえるように



▲ 坂折棚田で行われている田植え体験

です。どんな遠い所でも、そこにしかない魅力があれば人は来ます。栗きんとんであれば、名古屋で食べるよりも恵那で食べることに価値があると思います。そういう味わいがあるようにしたいです。

【会長】 体験できる催しへの関心は高いと感じています。バスツアー「トコトコ恵ちゃん」や2回目の体験型イベント「enaka（えなか）」は、行く所に魅力があれば人が来ますので、行き先を再考したいです。

【市長】 県の歌舞伎大会をやったときに、遠くからも見学者が来ていました。歌舞伎を見る機会がないからと遠くでも来たようでした。これも一つの文化として発信していくといいと思います。

【会長】 恵那峡には、人が来てもらう施策を立てなければならぬと思います。冬の恵那峡にも訪れてもらいたいの、今冬は、恵那峡で温泉と遊覧船をセットにした企画を再開しました。恵那峡では昨年、春と秋に5日間お茶会を開催して、好評でした。

【市長】 恵那峡の力はすぐあると思いますが、前回の整備から20年以上たつて、求められるものが変わってきました。再整備のため、現在は計画作りを進めています。観光の目玉にしたいと思っています。

【会長】 「恵那」は知らなくても「恵那峡」を知っている人はたくさんいます。これを生かさない手はないです。

【市長】 いかに求められるものをつかんで、すぐに対応するかですね。



市政モニター 後藤 加代子さん

市内の若い人でも恵那峡に行ったことがない人がいます。もっと魅力を持たせ、行って楽しかったと思えるようにしないといけません。

【会長】 市内の空き家を活用し、泊まれるようにしたらどうかと思います。子どもを連れて来て、田舎を体験してもらいなど、恵那しかできないことをやればと思います。特に、笠置町や中野方町、飯地町で笠置山の地形を利用した景色の良い古民家がいいですね。串原や三郷町でも古民家を利用して人を呼び込む取り組みが進んでいるようです。

中野方町では、クリ園を整備していますが、観光クリ園にするかと思っています。

【市長】 当市の特産には栗きんとんがありますが、地元のクリを使わなければと、国の補助金で20畝のクリ園を整備しています。今後は、クリ園の管理方法や活用方法を考えていく必要があります。

平成26年は市制10周年を迎えます。当市でも「ゆるキャラ」を作りたいと考えています。「市長、中学生と語る会」でも提言がありました。ユニークなものを作って、市の宣伝につなげたいと思います。

市民からも魅力発信を
(後藤) さらに交流人口を増やすために、市民に向けて呼び掛けることはありますか。

【会長】 市民が「恵那はいい所だ」と意識を高めるのが大事です。市民がその気にならないと、人は来てくれないと思います。

【市長】 外から見て魅力があると思うものは、住んでいる人も魅力があると思つて暮らさないと外の人も魅力を感じないのではないのでしょうか。自慢できるようなまちでないといけませんね。

【会長】 当市ほど魅力のある所はないと思います。

【市長】 市民が当市のことを宣伝することによって、みどりの祭りや、いわむら城下おかげまつり、ひな祭りにもお客が来るようになり、さらに交流人口が増え、地域の活性化につながります。当市の魅力を市民が共有して、発信することが必要です。当市の誇れるものが書いてある「えな100選」という冊子があります。5万4000人の市民がこれを勉強して、5万4000人の広報マンとして宣伝してもらえれば、当市がすぐ売れることになりそうです。

地域で、いろんな動きも発信してほしいです。交流人口を増やすことは、再度訪れる人を増やすことです。

「恵那へ行ったら良かった」ということを口伝えて広げてもらい、おいしかった物や楽しかったことを発信してもらいたいです。当市には温かい心を持った方がたくさんいます。「人とのつながりがよかった」と思ってもらえれば、再度訪れてもらえると思います。

市民の皆さんには、おもてなしの心で、人とのつながりをお願いしたいです。国体が成功したのは、皆さんの温かい接し方が良かったからだと思います。スケート競技では、寒いだろうからと、観覧席に敷くダンボールを配ったことが、すごく評判良かったです。少しでも暖かく見てもらいたいという気持ちが伝わったと思います。そういう気持ちがかみ合つていけば、交流人口の拡大や市の魅力の発信につながると思います。

(後藤) ありがとうございます。

▼いわむら城下おかげまつりでの楽しいおもてなし



▲暗いうちにSLをトレーラーで移動



明智小学校の校庭に40年間展示されていたSL(蒸気機関車C12型244号)が12月2日、明知鉄道明智駅に移されました。このSLは、かつて国鉄明知線を走ったことがある懐かしい機関車です。

移動前の11月25日、明智小学校では、5年生が全校児童に呼び掛け、感謝の気持ちを込めてSLを雑巾で磨きました。27日には、全校児童によるお別れ会が開かれ、勉強したSLや明知鉄道のことを発表したり、感謝を手紙にしたりしました。

SLは校庭から大型トレーラーに乗せられ、明け方に約700m離れた明智駅まで運搬。トレーラーからは、2台の大きなクレーンで線路へ降ろされました。

SLは、シートで覆って保管されていますが、明知鉄道では、今後SLの車庫を整備し、将来は、明智駅構内で動かすことを目指しています。



▲感謝の気持ちを込めてSLを磨く

明智小のSLが引越して 明知鉄道のレールに帰還



▲SLの前で勉強したことを発表



▲2台の大型クレーンで持ち上げる



▲明智駅でレールに乗った姿を披露